

- 1 附属幼稚園(福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科 2019年度修了)
上田 晴之 教諭
- 2 医学部 医学科 地域医療推進講座
山村 修 講師
- 3 教職大学院
半原 芳子 准教授
- 4 工学部 機械・システム工学科
松尾 陽一郎 准教授
- 5 国際地域学部
クリストファー ヘネシー 講師
- 6 医学系研究科 修士課程 看護学専攻2年
堀 拓也 さん

もっと知りたい、 あの人のこと。

大学に入ると、周りは知らない人ばかり。これは、チャンスだ。今まで会ったこともないような人、なにを考えてるのかわからない人、でも、なんだか魅力的な人が、きっといる。そして、そんな人の近くには、同じように妙に個性的な人がいたりする。思い切って、近づいてみよう。危険は(たぶん)ないから。で、気がついてみたら、あなたもすっかりそのネットワークの一員になっていたりするのです。

<https://www.u-fukui.ac.jp>

福井大学広報センター

本学の許可なく、掲載の記事や写真等を複製・転写することを禁じます。



入試に関するお問い合わせ

教育学部・工学部・国際地域学部:学務部入試課 TEL.0776-27-9927

医学部:学務部松岡キャンパス学務課 入試・学生(医学)担当 TEL.0776-61-8246

1

HARUYUKI UEDA
×
HIROKO SAITO

2

OSAMU YAMAMURA
×
HIROMASA TSUBOUCHI
SYUICHI TERASAWA

3

YOSHIKO HANBARA
×
YASMINE SAMY GAMALELDIN MOSTAFA

も っ と 知 り た い 、

4

YOICHIRO MATSUO
×
KYOHEI NAKAJIMA

5

HENNESSY CHRISTOPHER
×
YOKO KUWABARA
ASAMI ONISHI

6

TAKUYA HORI
×
JUNKO KITADE
KAZUKI MAEKAWA

あ の 人 の こ と

CHECK!!
2021年度版も
ご覧ください→





Profile

附属幼稚園

上田 晴之 教諭

(福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科 2019年度修了)

福井県出身。2002年福井大学教育学部卒業。同年4月より梅園学園梅園幼稚園勤務。2004年4月より福井市立幼稚園に採用。14年勤務を経て、2018年から現職。



保育士が「保母さん」と呼ばれていた時代。上田先生は、保育実習でその楽しさに衝撃を受けた。教育学部3年生の時のことだ。大学卒業後、おじいちゃんから猛反対されながらも保育士になったが、そこは“女性の職場”だった。——男性の保育は荒っぽい。そう思われなかったために工夫していた上田先生だったが、ある時、中学校の先生から

「君、女性になりたいの?」と言われてしまう。この一言がきっかけで、自分らしい保育について考えるようになった。それから10年余り。附属幼稚園で働きながら大学院に通う上田先生は今、長い時間をかけて形にした自分らしい保育を理論化する試みを続けている。

困難に負けるな、チャレンジ精神

昨年3~5月にかけては、家にいる子どもたちに対して、教育的に意味のある働きかけがどのようにできるのかを教員みんなで話し合いました。そんな中、研究主任である上田先生はリーダーシップを発揮しながらうまくまとめてくれたと思います。話し合いの結果、園の環境や、家の周りでもできる遊びの情報、歌や読み聞かせの動画を制作し、全家庭に配信しました。多様な観点から幼稚園を見つめ、教育的に意味を深め・高め発信したいという彼の願いにも通じる新たな取り組みになったと思います。

今も不安な状況は続いているが、本園では、屋内で消毒に神経をすり減らすよりも、戸外の身近な自然に関わるプロセスを大切に、遊びも積極的に展開しています。また、昨年度からは紙のお便りを廃止しました。代わりに毎日、保育の様子を写真に撮って保護者に提供し、その遊びや教育の意味を発信。毎日の中に、幼児期の学びがこれだけある、ということ伝えていくんです。しかし、コロナ禍

で業務が増える中、今年度もやるのか。教員たちに問いかけると、真っ先に上田先生が「やらないといけないでしょ」と声を上げ、今も率先して続けてくれています。誰も経験したことがない困難に陥った時でも、躊躇せずチャレンジしている彼の気質が、本園の中でも良いリーダーシップを発揮していると思いますね。

もっと知りたい、あの人のこと。

上司

教育学部附属幼稚園

斎藤 弘子 副園長

(福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科 准教授)

大人の本気が、子どもの

子どもたちが自ら学べるようにするには 意欲を突き動かす。

実際にお会いする前から、上田先生のこと「国立大学附属幼稚園に来て学びたいと意欲に溢れた先生がいる」と聞いていました。学び続ける姿勢と、チャレンジ精神が旺盛。彼は今の幼児教育にとってすごく大事な資質を持った人材だと思っています。

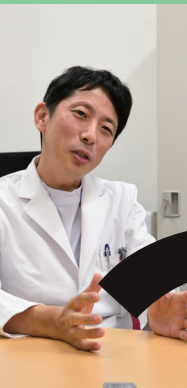
上田先生は、特に体を動かす楽しさを子どもたちに伝えるという面で、すごく力を発揮してくれています。彼自身、体を

動かすことが好きだから、そこから学ぶ子どもたちも体を動かすことが大好きになります。体を通して学ぶことはたくさんあって、子どもたちで力を合わせる幼児期なりの協同にも、体を動かすことはつながっているんです。先生の教育は、そういったところでも良い影響を与えてくれていますね。

また、今年度は自然に触れる環境を整えるということで、彼は保育室で川魚や

メダカ、カエルなどを子どもたちと一緒に飼育しています。一年中、子どもたちが自然の中で遊べる環境を保障して、そこからの学びを継続させようとする努力が、保育室に、そして彼から学ぶ子どもたちによく表れていますね。遊びの中で、自ら考えるプロセスを大切にできていると思っています。





Profile

医学部 医学科 地域医療推進講座

山村 修 講師

兵庫県出身。1994年兵庫医科大学卒業。2001年福井医科大学(現・福井大学医学部)大学院医学研究科修了。1994年より福井県立病院に勤務。2000年国立循環器病研究センターを経て、2010年本学医学部医学科地域医療推進講座講師。2016年4月より福井県災害医療コーディネーターも務める。



阪神・淡路大震災が起きた1995年1月。山村先生は、福井県立病院で研修医として働き始めたばかりだった。兵庫県生まれで、被災地には親戚や友人も多い。当然、医師としては未熟で、役に立てる保証もない。それでも、行かないわけにはいかなかった。それ以降、山村先生は災害と医療の問題に取り組んでいる。とりわけ問題視

ているのが「災害関連死」の問題。報道が終息してからも、生活環境の変化が原因でたくさんの方が亡くなっているのだ。被災者の“その後の生活”を支える医療のために、山村先生は保健師や介護士など、地域の多職種との連携を図っている。そのために、今でもさまざまな被災後の現場に足繁く通っているのだ。

福井県済生会病院 放射線技術部
医学系研究科博士課程 総合先進医療専攻
地域総合医療学コース 4年
坪内 啓正 技師

後輩

被災地健診には必ず行きます。

もちろん、史跡巡りにも。

話やすく親しみやすい先生なんです。抜けている所もあって。約束をすっぽかされることが時々あります。例えば、「研究発表用のスライドをチェックしてください」と時間まで決めて頼んだのに、いざ行ってみたらいない、とか。そんなことで医師が務まるのか?と思われるかもしれませんが、もちろん医療現場の先生は忘れん坊じゃありません。2007年に発生した「能登半島地震」から13年間、僕と先生はずっと被災地健診を続けています。実施するのは、足に超音波を当てて、静脈の太さや血栓の

有無などを調べる「下肢静脈エコー」という検査。主に、避難所や車中での生活で血栓ができていないかを調べます。しかし現場に行くと、検査があるなんて聞いてない!や、余所者は被災地に来るな!と言われることもままあるわけで…。そんな時、決して感情的にならず、謙虚に必要性を説明する先生はとても頼もしい存在なんです。現地での健診を終えた後は一気にオフモードに。先生は歴史好きなので、決まって史跡巡りに出掛けます。先生に解説してもらいながらいろんな所を見て回

るのは面白いですよ。そんなちょっとした楽しみがあるから、ボランティアでも人が集まるんだと思います。もちろん、先生の人柄によるところも大きいです。これまでの被災地健診から得られたデータを自由にに使わせてくれるおかげで、みんな自発的に研究発表や論文に取り組むことができています。中にはそれで賞を獲った人も。そして、そうした僕たちの成長を誰より喜んでくれるのも山村先生なんです。もっと成長した姿を見せたい、その気持ちがモチベーションになる。まさに「山村チーム」の原動力です。

上司

山村先生は器用貧乏?

医学部 医学科 地域医療推進講座

寺澤 秀一 特命教授

いや、“いっちょかみ”だ!

山村先生は天然人たらし。誰とでもすぐに仲良くなれるので、いろんな人を巻き込んで、その気にさせて、動かすということがとても上手なんです。だから、地域医療を回していくために多職種で連携する時でも、いとも簡単にメンバーをまとめ上げることができてしまう。彼は、今の時代に適した武田信玄タイプのリーダーだと僕は思っているんです。みなさんご存知の通り、先生はとても“いっちょかみ”精神旺盛。いろんなことに関わって、いろいろな人と出会い、繋がりをつくることで、仕事も増えているんです。今では県の医療アドバイザーの仕事も担当しています。これは、福井県では将来、どういう科の医師がどれくらい不足するか・余ってくるか、ということ

を正確に把握。それを吟味した上で、福井県には今後こういう医師が必要だという、将来構想を提案する、というものです。おかげで彼は、医療政策にすごく強い人材になってきていると思うんですよ。そういう意味では、僕よりも遥かに大学教授に適している気さえしますね。福井県で育ち、地元へ愛着があり、土地のことも、県民性についてもよく知っている。そして、持ち前の“いっちょかみ”精神で、多様な仕事に関わり、たくさんの人たちと良好な関係を築けている。そんな山村先生は今後、福井県の医療政策

に多大な貢献をする人だと僕は予感しています。とはいえ、研究者は得てして、論文や発見ばかりが目されがち。その点、山村先生は突出した“売り”がないように見えるかもしれませんが、県民全員により質の高い医療を提供するためには、幅広い視点と、多職種の人たちに慕われる人望が不可欠です。それは、“いっちょかみ”な山村先生にこそ備わっている資質だと、私は思っています。



坪内



Profile

教職大学院
半原 芳子 准教授

大分県出身。2012年お茶の水大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程修了。2013年10月福井大学大学院教育学研究科特命助教。2017年4月同研究科准教授。2018年4月より現職。「NPO法人子どもLAMP」のメンバーとして2003年より東京・神奈川の外国にルーツを持つ子どもへの学習支援も行っている。



日本語教師として働き始めて一年目。半原先生は、青年海外協力隊の一員として、ヨルダン国立大学で日本語を教えていた。将来、日本で働くことを志す若者たちの役に立ちたい。その一心で、日本語の言葉や文型を一生懸命に教えていた。しかしある時、自分の日本語教育は、本来ヨルダンを支えていくはずの

若者を国外に送り出し、国を空洞化させることにつながるものだったと気づく。それ以来、半原先生は「言葉を学ぶ」のではなく「言葉で学ぶ」こと、そして、言葉の教室を社会と切り離さないことを信念に、言語教育のあり方を模索している。

3

もっと知りたい、
あの人のこと。

同僚

福井大学大学院 福井大学・奈良女子大学・
岐阜聖徳学園大学 連合教職開発研究科
(連合教職大学院)
ヤスミン・モスタファ 准教授

「可愛い」は半原先生のために

ある日本語かも。

優しくて可愛い先生？

「可愛い人だな」それが素直な第一印象でした。cute・lovely・prettyなどなど、英語にはいろんな表現がありますが、半原先生は全部含めて可愛かった。大学2年生だった私たちと年齢もあまり変わらなかったの、先生と学生というより、友達みたいな感覚。当時、あまり日本語で会話できなかった私たちに対して、アラビア語で話してくれたのですが、その発音も可愛かったです。先生が話されていたのはヨルダン方言が多く、それが私たちエジ

プト人にとっては、とてもほっこりするニュアンスだったんですね。また、先生はいつも笑顔で優しく、私たちに寄り添ってくれていました。ゆったりしたペースで話し、分からない時は易しい言葉に言い換えて説明してくれたので、とても分かりやすい授業だったのを覚えています。大学卒業後、私は日本の大学院で博士号を取得。2年後には、サウジアラビアに引っ越して、インターナショナルスクールの英語教師を2年間経験しまし

た。それと同時期に、エジプトでは教育改革の大きな動きがありました。2016年2月に「エジプト・日本教育パートナーシップ」(EJEP)が締結されたんです。これにより、エジプトの教職員が福井大学で研修を受けることになりました。日本を離れた後も半原先生と連絡を取り合っていた私は、先生を通してそのことを知り、教員公募に応募し、今があります。

先生と学生、から同僚へ

当たり前ですが、同僚になってからの半原先生は大学時代よりも厳しくなりました。気配り上手な半原先生ですが、本気で怒っていらっしゃる時は、私にはすぐに分かります。それはご自分のことよりも、チームの動きを優先なさるからなのですが、そのことを私は尊敬しています。現在、私はEJEP研修のコーディネーター

として、主にエジプトからやって来る研修員のサポートをしています。また、エジプト・日本間のやりとりや、研修に必要な情報の共有など、研修に関わる全てのことも、スタッフと協力しながら進めています。さらに、私は教職大学院に所属しているので、現職教員やこれから教員になる若手院生の学びのサポートもしています。もちろん、先生から同

僚になった半原先生とそれらも協働で進めています。EJEP研修はアラビア語がメインなので、ほとんどの場合、私が両者の間に入ることになるんですね。そんな中、同じくアラビア語ができる半原先生は、私が通訳をしている時、すごく一生懸命聞いてくださっています。時には、専門用語や日本語独特の表現をアラビア語でどう表したら良いかを一緒に考えることもあります。今後も国内外の教員の学びをより良く支えるために、もっと深く半原先生と協働していきたいと思っています。





Profile

工学部 機械・システム工学科
松尾 陽一郎 准教授

大阪府出身、2009年-2012年3月独立行政法人日本原子力研究開発機構 博士研究員、
国立大学法人福井大学 特別研究員を兼任。本学大学院工学研究科 原子力・エネルギー
安全工学専攻特命助教、2020年本学同研究科准教授。

4

もっと知りたい、
あの人のこと。



松尾先生の祖父母は長崎県出身。親戚
が集まったときには、原子爆弾の体験
が話題になることもあった。原爆が落ち
たとき、その放射線自体をなくすことは
できないのか。当時、まだ小学生だった
先生は、そんなことを考えたそう。長
じて、放射線生物学が専門の研究者に
なった。
そんな松尾先生には、小説家というもう



一つの顔がある。書き始めたのは大学
院生とき。研究が行き詰まってつら
い時期の、気分転換として始めたとい
う。そんな中で書いた『鳩とクラウジウ
スの原理』が、角川書店主催の「第1回
野性時代フロンティア文学賞」を受
賞。しかし、研究者としてやりたいこと
があった松尾先生は、専業作家にはな
らなかった。

同僚

工学部 機械・システム工学科
中島 恭平 講師

刮目せよ！これが松尾先生の 才能だ！

松尾先生は愛されキャラ。キャンパスで
はよくコーラとカップラーメン、あとス
ナック菓子を食べているところを見か
けます。先生の奥さんは管理栄養士の
資格をもっている。「そんなものばっ
かり食べてたら怒られないですか？」と
尋ねると「これは全部ナイショです」と
(笑)。見ていて飽きないというか、不思議
と惹きつけられる魅力のある人だな、
といつも思います。
そして、何と言っても先生はとにかく多
才。研究者でありながら、小説家として
も活躍されています。小説の挿絵や、高

校への出張授業で使う資料のイラスト
をご自身で描かれています。さらに、ジ
オラマ製作にも凝っているらしく、かつ
てはデスクの引き出しを開けると、そこ
に京都の街並みが広がっていたという
噂も…。
僕は松尾先生の書く小説が大好きな
ので、積極的にみんなに教えて、世間に広
めていきたいと思っています。大学
生協に特設コーナーがあれば、他の先
生に宣伝し、自分の教室には作品を
飾っています。他にも、1・2年生対象の
研究室見学会や授業の際には「放射線

の研究をしながら小説を書いている面白
い先生がいるから、ぜひうちの専攻に
来て」と、先生をダシ…先生の才能にあ
やかって原子力安全工学コースへの勧
誘もしているんです。
研究と執筆で大変なはずなのに、バラ
ンスをとりながら頑張り続けていらっ
しゃる松尾先生。奥ゆかしく、自分をひ
けらかさない先生ですが、その研究も
作品も素晴らしいと思っています。な
ので、これからは僕が代わりに発信し続
けていくつもりです。

本人

僕が変な人だって？

それはお互いさまですよ。

僕の食生活も荒んでいますが、中島先
生だってかなりヤバイですよ。お菓子
ばかり食べてますし。中でもひねり揚
げが大好きで、この間、一緒に生協に
行った時には僕も勧められるまま買って
しまいました。
先生は多才だと思ってくれているよう
ですが、僕から見れば彼こそいろんな引き
出しを持った先生だと思います。チェロ
が弾けるとか、コーヒーは豆の焙煎もす
るくらいこだわっているとか、登山にも
よく行かれるとか。人に語れるような趣
味・才能を持った人は面白いですよ
(もちろん、研究一筋の先生も尊敬して
いるんですよ)。だから、今日は何か面白
いことないかなと思ったら、僕は中島先
生の研究室に遊びに行くんです。彼の

部屋にはコーヒーミルもありますし。正
直、何を考えているか分からないところ
もあるので、良い意味で変な人だな、と
も思いますが関係は良好。まあ、恐らく
彼も僕のことを変なやつだと思っている
でしょうけれど。
でも、僕の書いた小説が好きだと言っ
てもらえるのは素直に嬉しいです。「そ
んな暇があったら論文を書け」という人も
いますし、反論できないし…。
ただ、小説を書くことのメリットももち
ろんあるんです。小説は何時間でも書ける
から、座って書く持久力みたいなものが
身について、論文を長時間書くことに対

する抵抗が少なくなったと思いますし。
また論文をガッツと書いてみると、ふと
「…小説書きたいな」と思うことがあるん
です。だからやっぱり、息抜きというか、
使う頭をリセットしたり、切り替えたりで
きるものがないと研究者はつらいと思
いますね。
中島先生には、小説のネタ作りに協力し
てもらったり、新しい原稿を読んでも
らったりと、小説家としても何かとお世
話になっています。今後は、放射線研究
やオンライン授業で、研究者としての関
わりを深めていきたいですね。





Profile

国際地域学部
クリストファー ヘネシー 講師

アメリカ・メリーランド州出身。2004年メリーランド州立大学(言語学・日本語学専攻)卒業。2011年オーストラリア国立大学大学院翻訳学準修士課程修了。2013年早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程修了。2013年より本学語学センター、2016年より国際地域学部助教。2019年4月より大阪大学大学院文学研究科日本語学博士後期課程在学中。2020年4月同学部講師。

5

もっと知りたい、
あの人のこと。



メリーランド州立大学在学中、クリス先生は交換留学生として神戸大学で1年間日本語を学んだ。そして大学卒業後、尼崎市の工業高校でALT(外国語指導助手)を4年間務めたが、そこで方言の壁にぶつかる。外国人がコミュニティに入っていくことを妨げる要因にもなっている方言。しかしクリス先生は、そこに面白さがあるのだという。2013年に福井大学に着任し

たクリス先生は、方言を含む外国人労働者の日本語環境を分析している。地方で暮らす外国人が職場や地域のコミュニティでより充実した生活を送るために、適切な日本語教育はどのようなものか、模索しているのだ。今では、自分の専門分野である日本学や日本語学を、留学生だけでなく日本の学生にも教えている。

同僚

語学センター
桑原 陽子 准教授

クリス先生は欠点のないジェントルマン!?

クリス先生はとても行動力があってパワフル。いつでもポジティブで、目標に向かって突き進んでいける強さのある人だと思っています。以前、共同で論文を書いた際も、私が「今は忙しいから大変じゃない?」といくら言っても「できるよ」と言って、持ち前の行動力でカバーしてしまう、ということがありましたね。また、彼はよく「コミュニティ」という言葉を使います。それは、周りの人たちとのつながりをすごく大事にしているから。例えば、みんなでご飯食べようよという誘いをしてくれたり、みんなで定

期的に集まろうということを積極的にやってくれたり。私も、お家に呼んでいたこともありました。そういう風に、人とのつながりを何よりも大切にしている人なんだな、というのは教員だけでなく、学生との関わり方にも表れていると思います。もちろん、クリス先生は英語関係の授業も持たれていますし、大学からは英語母語話者として期待されている部分も大きいと思います。けれど彼は、日本語教育について大学院で学んでいる人で、当然、日本語も堪能。そこで、彼にも日本

生徒

どこにでもいるんです、クリス先生は。

国際地域学部 3年次
大西 亜咲実 さん

どこにでも現れる“近所のお兄さん”的存在。それがクリス先生です。とにかくアクティブで、イベント事には必ずと言って良いほど参加されます。私が先生とプライベートで関わるようになったきっかけも、2年生の春に「足羽山大茶会」に誘ったことがきっかけ。陶芸体験に誘った時もノリノリ。地元の人でもここまでイベントに積極的な人はいないんじゃないかと思います。日本人より日本の文化や方言に詳しくて、日本人とアメリカ人のハーフの先生から“more Japanese”と称されたこともある「変な先生」なんです。2年生からは、クリス先生には助言教員として、卒業論文や就職活動に関する相談に乗ってもらっています。日本人の先生と話す時は敬語を使うので、どうしても堅苦しくなってしまうのですが、先

生とは英語で話すからか、フランクにいろんなことを相談できるんです。私の英会話力は、正直、中学生レベルからそんなに進歩していないんですが、クリス先生とは、なぜか自然にコミュニケーションが取れる。たとえば、ダンスが苦手な人でも達人が相手だとうまく踊れる、みたいな感じでしょうか。卒業論文では、「地域コミュニティを新しく形成するためには、どういう場所・ものが必要か」というテーマを追究しています。今、祖父の元で茶道を習っているのですが、そこを研究の場として、茶道

教室がコミュニティ形成の場としてどう機能していけるかを考えています。クリス先生も茶道をされていて、先日「こういう文献を読むといいよ」と、LINEでどっさり送ってくれました。就職環境が厳しい中、私がやりたかった仕事を見つけられたのも、プライベートの垣根を越えてクリス先生といろんなお話をしてきたおかげ。自分は何が好きでどういう人間なのか、見つめ直す機会を与えてくださった先生には、本当に感謝しています。





Profile

医学系研究科 修士課程 看護学専攻 2年
堀 拓也 さん

福井県出身。2012年福井大学医学部看護学科卒業。同年より福井赤十字病院に勤務。
2019年福井大学大学院医学系研究科 修士課程看護学専攻老年看護専門看護師課程
入学。

6

もっと知りたい、
あの人のこと。



今からおよそ3年前、堀さんのお父さんは認知症を発症した。看護師として、そのケアについて知識も経験もあった堀さんだが、家族となると冷静ではいられなかった。看護師として働き始めて7年経った2019年。母校の福井大学に「老年看護専門看護師課程」が開講された。医療者として、そして認知症患者の家族とし

て未熟さを感じていた堀さんは、改めて大学院に入学し、専門看護師の道を歩み始めた。昼間は看護師として働き、夜は大学院に通う。そうすることで、現場での仕事を客観的に見つめ直すことができるのだという。堀さんは今、一つひとつ課題を解決しながら、その成果を職場の仲間たちに還元している最中なのだ。

親友

距離感が分からない僕たち。

南越前町保健師
前川 和毅 さん

堀さんは面白いんですよ。しばらく会っていないと、その人との距離感が分からなくなるんです。以前、久しぶりに会った時には、これまで使ったことがなかった敬語で話しかけてきたこともあったほど。「堀さん、また距離感が分からんようになってるよ」と僕がツッコんでようやく学生時代に戻る、というのはよくありますね。とはいえ、僕もずっとさん付けで呼んでいるので、距離感が分かっているのかも…？
そんな堀さんと知り合ったのは、大学3年生の時。専門学校から福井大学に編入学して、同じクラスに入りました。そのクラスには男子が多く、僕も含め10人ほどいたのですが、3年生なので当然、僕以外みんな仲良しなわけです。でも、そんな中で堀さんは、時にはグループ

ワークの合間を縫ってまで声をかけてくれていました。当時から「いいやつ」だったんですね。
卒業後、僕は保健師として働きはじめ、堀さんは看護師の道へ。その後、彼は大学院に進学したのですが、交流はむしろ在学中よりも濃くなりました。忙しい時でも3カ月に1度は会って、彼が学んでいることを教えてもらったり、お互いの悩みを相談したり。うまく言えませんが、堀さんに会うと「栄養補給」できる気がするんですね。彼が頑張っているから僕も仕事を頑張ろうと思える。お互いに高め

あえる存在だと思っているんです。僕自身、堀さんから刺激を受けている部分は大きく、もっと勉強して地元の力になりたいと考えています。そして、将来的には堀さんと二人で世の中をより良くしていきたい。
でも彼は謙虚で、置かれた環境の中で精一杯、自分にできることをしようとするタイプなんです。僕の個人的な願いとしては、堀さんには人の上に立って、人材育成を通して彼の力を還元してほしいと思っています。



恩師

医学部看護学科 コミュニティ看護学
北出 順子 准教授

デートするほど仲が良い二人。

堀くんの話で一番に思い出すのは、何といても「堀ノート」の存在。当時、苦学生だった彼は、私が担当していた授業の教科書を持っておらず、友達に見せてもらったり、コピーしたり、自分で工夫してノートを作っていたんですね。その色づかいや絵の上手さはなんと、「頭がいい人はなぜ、方眼ノートを使うのか？」で有名な、作家の高橋政史さんにも絶賛されるほどだったんですよ。「堀ノート」で有名だった彼は、常に帽子をかぶっていておしゃれだったので、下の学年の子たちから「ハットさん」と呼ば

れることもありました。すごく謙虚で控えめな性格でしたが、そういう面では目立っていましたね。堀くんと前川くんは学生時代からの親友で、今でも仲良しなんですよ、ドライブデートに行くくらい(笑)。でも選んだ道は別々で、堀くんは看護師に、前川くんは保健師になりました。実は私、堀くんも保健師になってほしいとずっと思っていたんです。というのも、保健師は自治体や会社などの大きな集団と、その中の一人ひとりの両方を看る必要があるので、看護師よりも頭の切り替えが難しい。

でも、堀くんにはそれがバツとできたから。けれど、仕事や将来の話をする中で、看護師にかけられる切実な思いも分かりました。患者さんに対する気持ち・姿勢は本当に真摯で、彼は心から看護の仕事が好きなんだと。
実際、患者さんに対応する時間を大切にすぎで、一年目はあまり評価されていなかったとも聞いています。でもそれは、したいこととすべきことのバランスが取れていなかっただけ。今では、「どんどん成長しているのに謙虚さはずっと変わらない」と再評価されているみたいです。

